

裏ちば会議 vol.2 ゲストスピーカープロフィール



Mar61e
高田 文哉 氏

まちを楽しむひと。楽しいひとを見るのが楽しいひと。

みんなから「ぼん」の愛称で親しまれている高田文哉さんは、とにかく好奇心旺盛で、目の前に楽しそうなことがあったら飛びつく性分。中学生の頃から憧れ続けた建築設計を大学院で専攻する傍ら、千葉駅西口エリアや裏チバで活躍するコミュニティブランド「Mar61e(マーブル)」を学生仲間と立ち上げるなど、この数年、裏チバ界隈で活躍してきました。

掃除とコーヒープレイクを楽しく活動する「CCc(Cleanup & Coffee Club Chiba)」やアートを通してまちを体感する「うらにわ芸術祭」を開催したのも、自分たちのまちへの想いをのせたオリジナルブランド「M61」も立ち上げたのも、あらゆる形で、みんなの「誇り」となるまちを目指すため。元々、市外出身・在住で、この地域に縁があった訳ではない高田さんですが、まちで様々な関係を育んできた結果、今ではこのまちを「家族でもなく学校でもなく、戻って来れる場所ができた」とともに、建築設計者になる者として、もっと「ひと」を知る必要があると思うようになりました。

ひとを愛し・ひとに愛される高田さん。彼がまちに漂った結果、何を獲得したのか、そして、想い描く理想の建築家としてどんな大切にすべきことが見えたのか。裏ちば会議[vol.2]では、Mar61e 主宰の高田文哉さんに、これまでの千葉駅西口や裏チバでのグッドネイバースな取り組みと、そしてこれからのことをお話していただきます。



チーム海 machi
鈴木 年樹 氏

裏チバの奥、都川を渡った先にある寒川(さむがわ)地区で生まれ育った鈴木年樹さん。戦後に海が埋め立てられるまでは、寒川神社を中心とした漁師町だったその街の漁師たちは、漁業権を放棄してその多くがサラリーマンになり、以降、海とは無縁の生活を過ごすことになりました。

地元の祭りのシンボルだった神輿を担いで海の中に入る「御浜下り(おはまおり)」も昭和 34 年で最後に。しかし、鈴木さんはまちのアイデンティティを取り戻すべく活動を続け、遂に、平成 12 年の夏に御浜下りを千葉ポートパークで復活させました。令和 4 年の寒川神社例大祭の前夜祭では、寒川神社の神輿を千葉中央駅前に鎮座させると、令和 5 年の例大祭では「千葉みなと・さんばし祭り」と御浜下りのコラボイベントも開催させました。

元々、若き頃「彼女を連れて来るのが恥ずかしかった」のがそもそものモチベーションだったと語る鈴木さんでしたが、元々の歴史好きも手伝って、独自に千葉のまちの歴史・文化のリサーチもスタート。その NHK の某有名まちあるき番組に企画を提案したり、小学生にまちの歴史・文化を伝える冊子をつくるなど、その活動はさらに拡がりを見せています。

「実は寒川はかつて”さんが”と呼び、千葉の郷土料理”さんが焼き”発祥の地という説もあるんです」と次々とまちのストーリーを語ってくれる鈴木さん。裏ちば会議[vol.2]では、寒川の御浜下り実行委員会の鈴木年樹さんに、その取り組みと地元への想いについてお話していただきます。

裏ちば会議 vol.2 ゲストスピーカープロフィール



kinnonekko
金子 真規子 氏

23 年前、子育て中に自分の居場所が欲しくてママ友サークルを立ち上げた金子真規子さん。

「きっと私みたいに居場所を探しているママがきっといる！ママ達をサポートしたい！情報をシェアしながら、安心して楽しいコミュニティを作りたい！」自分の為に始めたことはいつしか誰かの為になっていきました。

2007 年に子供向け英会話教室をスタートし、2009 年、忙しいママ達を癒す為ホームケアエステ『金のねっこ』もスタート。ママとお子さん達を癒しサポートする場所や方法を少しずつ増やしなが、2022 年には新田町にケアサロンをオープンさせました。

「金のねっこ」というサロン名は、心も体も、美容も健康も全て【根っこ】が大切！対処法ではなく根本解決を提供したい！という想いから。エステに加え、よもぎ蒸し・クレイパック・エッセンシャルオイル・植物系ミネラルといった自然のものを取り入れ、植物のパワーでみんなの心と体を癒してくれます。

子育てをして来たからこそわかるママ達の気持ち。ママの笑顔を増やすことは、子どもの笑顔を増やすことに繋がる！と信じて、ママ達が自分自身の心と体を癒すことをサポートする共に、家族の健康を守る術や、家族で触れ合うことの大切さも伝えてくれています。

「不安も心配もイライラもぜ～んぶ受け止めるよ～！大丈夫！困ったらいつでもおいで！」そんな無償の愛で 1 人 1 人に寄り添う真規子さんは、さながら『みんなのお母さん』。裏ちば会議[vol.2]では、金のねっこの金子真規子さんに、愛情たっぷりのその取り組みについてお話しいたできます。



yaco coffee
田邊 優 氏

2022 年 3 月に裏ちばにオープンした自家焙煎珈琲店「yaco coffee」。夫婦で切り盛りするそのお店の名前は、おじいちゃん・おばあちゃん子だった奥様の祖父母の苗字からとりました。登戸 1 丁目にあるビルの 1 階に店を構えたのは、たまたまその角を通りがかった時に、大好きな曲が BGM として流れてきたからなのだと思いますが、元々大切にしているのは、一歩踏み込まないと分からないような世界。だからこそ、住宅街の中にひっそり佇むそのお店で、若き店主である田邊優さんは、日夜、研究を重ねるように、珈琲豆の焙煎を続けています。

元々、ごくありきたりの学生生活を送り、流し込むようにコーヒーを飲んでいたという田邊さんでしたが、ある日突然、図書館から借りてきた珈琲の本が山積みに。珈琲豆はまだまだ体系だったものがなく、未知の領域だと知った田邊さんは、根っからの探求心に火がつき、一気に珈琲のその世界に夢中となっていきました。

丁稚奉公とも言えるような 2 年半の修行期間を経て、ついに“自分たちのお店”を開業することになりましたが、ブレンド豆を数多く揃えているのは、流行り廃りに左右されることなく、同じ商品に長く“愛着”を持ってほしいから。開店当時は、SNS 全盛の世の中に翻弄されて悩んだ時期もあったといいますが、2 年目を迎えて、カフェ営業を辞めて、豆販売 1 本に絞ったりしながら、自らのスタイルを整えてきました。

研究心から、時に天文学的な摩訶不思議なキーワードも飛び出すこともありますが、「自宅でゆっくり珈琲を淹れる文化を広げていきたい」というのが田邊さんたちのその想い。裏ちば会議[vol.2]では「yaco coffee」の店主の田邊優さんに、大切にしているその世界観となじみのお客様と育むその時間についてお話しいたできます。